# 東京家政学院大学附属大江記念図書館ラーニングコモンズの 利用状況について

# 小池 孝子1 新開 よしみ2

平成27年4月に整備された本学附属大江記念図書館ラーニングコモンズの学生の利用状況について調査し、学生の自主的な活用の推進について検討をおこなった。学生が居心地が良い空間として認識、利用している空間は第二食堂、図書館、ローズコートの順で、図書館は一人での利用は多いが、複数人では利用が少ない傾向にある。ラーニングコモンズは授業以外での自主的な利用はまだ少ないが、グループ学習に使うようになったとの意見もみられたことなどから、ラーニングコモンズの使い方について周知をおこなうことにより、学生の自主学習の場としての役割を果たすことが期待できる。

キーワード:大学図書館 ラーニングコモンズ 自主学習 居心地

## 1. 序論

#### 1-1 研究の背景と目的

本学の附属大江記念図書館が平成27年にリニューアルされ、1階部分がラーニングコモンズとして整備された。ラーニングコモンズとは、近年大学図書館で整備が進んでいる、学生や教職員の自主学習のための空間である。文部科学省が設置した作業部会においては次のように定義されている<sup>1)</sup>。

複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする『場』を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。

ラーニングコモンズは、学生の主体的な学習を 促すための空間および仕組みとして、近年の大学

# 1-2 既往研究と本研究の位置づけ

大学図書館のラーニングコモンズに関する研究 は2000年代後半からみられるようになり、2008 年には上田<sup>2)</sup> らが先行する図書館の事例研究とし て東京女子大学、お茶の水女子大学など3大学の サービスと運営の内容をまとめ、その効果として 入館者数や館外貸出冊数の増加を指摘している。 さらに、ラーニングコモンズ整備のためのガイド ライン作成が望ましいが、そのためには更なる検 討が必要だと指摘している。茂出木<sup>3)</sup> はお茶の水 女子大学の事例報告とともに米国でのラーニング コモンズの整備状況について紹介し、図書館が学 生にとって魅力ある学習空間となる可能性を指摘 している。また、栗山4)らは建築計画の視点から、 ラーニングコモンズを計画する際には、情報端末 の設置台数の検討、音環境のための隣接する諸室 との区切り方・配置計画の検討、エントランスと の関係性の検討等が必要であるとしている。さら に蒋<sup>5)</sup> らの研究では図書館の居心地に着目し、 ラーニングコモンズの整備により、本の貸出しや 読書などに加え「会話」が含まれる複合的な行為

に求められている施設であるといえる。

<sup>1</sup> 東京家政学院大学現代生活学部生活デザイン学科

<sup>2</sup> 東京家政学院大学現代生活学部児童学科

が生じたと指摘している。

これらの研究は、ラーニングコモンズ整備の有効性を指摘しながらも、その計画手法・運営手法はいまだ確立されていないことを示している。本学においても、現在の利用状況を把握し、今後の活用につなげていくことが必要であろう。そこで本研究では、本学ラーニングコモンズの学生の自主的な活用のための方策を探ることを目的に、町田キャンパス内における学生にとって居心地のよい空間およびラーニングコモンズの利用状況について調査・検討を実施する。

### 2. 調査概要

ラーニングコモンズ整備前後の図書館利用状況の変化を確認するため、本学生活デザイン学科、児童学科の3、4年次学生を対象として図書館およびラーニングコモンズの利用に関するアンケート調査を実施した。また、平成27年11月15日、16日の両日の図書館来館者に対しても同様のアンケート調査を実施した。調査概要を表1に示す。

表1 図書館の利用に関するアンケート概要

調査期	調査期間: 2016 年 10 月~ 11 月										
	教職員	児童	人間 福祉	生活デ ザイン	地域 利用	非常勤 講師	留学生	不明	合計		
1 年生		3	1	3					7		
2 年生		5		5					10		
3 年生		100	1	63					164		
4 年生		68	1	37				2	108		
その他	2				1	1	1		5		
合計	2	176	3	108	1	1	1	2	294		

#### 3. ラーニングコモンズの整備状況

#### 3-1 他大学ラーニングコモンズの整備状況

平成27年の国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会による報告書<sup>6)</sup>では、ラーニングコモンズを整備している大学は2012年度時点で41.8%、私立大学においても38.1%にのぼることが報告されている。こうした背景もあり、本学においてもラーニングコモンズの設置・運用の検討が開始された。

ラーニングコモンズ整備に先立ち、本学附属図書館運営委員会による近隣大学の視察が行われた。平成25年度第1回附属図書館運営委員会資料より、他大学の整備状況を表2に示す。ラーニ

表 2 他大学ラーニングコモンズの整備状況

	スペース名称	設置階	記備						1	T		
			PC	パーテー ション	ホワイト ボード	プロジェクタ ・スクリーン		学生 アシスタント スタッフ	無線 LAN	その他	の可否	食べ物 の可否
お茶の水女子大学	ラーニングコモンズ	4 00%	0	×	×	×	×	0	0		△夏場はフタ 付きのみ可	×
	キャリアカフェ	1階	×	0	0	×	0	0	0		0	×
	ラウンジ		×	×	×	×	×	×	0	ピアノ	0	×
	クワイエット・スタディスペース	2階	0	×	×	×	×	×	0		×	×
静岡理工科大学	楽しむコーナー		×	×	×	×	×	×	0		×	×
	プレゼンテーションルーム	4階(ワンフロ ア形式)	×	×	0	0	0	×	0		×	×
	グループワークルーム		×	×	0	△(貸出)	0	×	0		×	×
	リフレッシュコーナー	1	×	×	×	×	×	×	0	バルコニー (屋外)	〇缶入り飲料 のみ可	×
武蔵野大学	コミュニケーションフロア	2階(入口階)	0	0	×	×	0	×	0		〇フタ付のみ	×
	メディアスペース	-1階	0	×	×	×	×	×	0		×	×
<b>キ</b> キエフエ쓰	プレゼンテーションルーム		0	×	×	0	0	×	0		×	×
東京女子大学	コミュニケーションオープンスペース		×	×	×	×	0	×	0		×	×
	リフレッシュルーム		0	×	×	×	×	×	0		0	0
上智大学	コンピュータルーム	2階	×	×	×	×	×	×	×		×	×
	グループ学習室		△(持込み可)	×	0	×	0	×	0		×	×
	学生ラウンジ	地下1階	×	×	×	×	0	×	0		〇フタ付のみ	×
	ラーニングコモンズ		0	0	0	△(貸出)	0	0	0		×	×
国際基督教大学	グループスタディルーム	1階	0	×	×	×	×	×	0		〇フタ付のみ	
	ライティング・サポートデスク	1	0	×	×	×	×	0	0		〇フタ付のみ	
	グループ学習デスク	地下1階	×	×	0	×	0	×	0		〇フタ付のみ	
	ブレイクエリア		×	0	×	×	×	×	0		〇フタ付のみ	
	リフレッシュメントコーナー	地下1階	×	×	×	×	×	×	0		0	0
	マルチメディアルーム	(ゲート外)	0	×	0	0	×	×	0		〇フタ付のみ	×

ングコモンズは「グループワークルーム」「コミュニケーションオープンスペース」「グループ学習デスク」など様々な名称がつけられていることがわかる。ほとんどの大学でPC、無線LANといったネット環境が整備されている。グループ学習を促すために、人数に合わせて簡単にレイアウトが変更できる可動式の椅子が置かれたコーナーを設けている大学が多く、大学院生など学生スタッフによる学習支援をおこなっている大学もみられる。

また、学習の場だけでなく、飲み物が飲める場所や食事が出来る場所が設けられていることが、従前の大学図書館から大きく変化してきている点である。このことから、ラーニングコモンズは、単に学生の自主学習を促すための空間にとどまらず、図書館に来館する機会を増やすことにも役立っているものと考えられ、自主学習のきっかけ作りという役割をも果たしていると考えられる。

#### 3-2 本学ラーニングコモンズ設置の経緯

本学ラーニングコモンズは、平成25年5月30日の附属図書館運営委員会にて、初めて議題として取り上げられた(表3)。平成25年10月17日には基本方針が示され、平成26年5月22日には業者にマスタープランが提示された。平成26年12月12日に町田からラーニングコモンズ化を行い、三番町も含めた図書館のラーニングコモンズ化のきっかけとすることが承認された。

ラーニングコモンズ設置以前の本学図書館1階スペースは、学生の図書館利用の変化により使い勝手に問題があるのではないかとみられていた(表4)。学生の学習を保障するためには静かな環境だけでなく、インテリア、雰囲気、明るく気軽に来られるような場所であることが求められるとの意見が出され、現在のような白を基調とした明るいインテリア計画が採用され、新たに以下の4つのエリアが設けられた。①プロジェクター、電子黒板、グループ学習のための机やホワイトボードを備えたグループワークスペース、②学習支援のためのラーニングサポートスペース、③企画展示スペースとして学内外の交流を支援するコモンギャラリー、④開架書架に学術雑誌を配したディスカバリー・スペース(図1)。窓際にはPC、プ

表3 本学ラーニングコモンズ設置の流れ

10	本 1 / ー ン / こ と ン / I   D   O   O   O   O   O   O   O   O   O
平成 25 年 5 月 30 日	ラーニングコモンズが初めて議題として取り上げられる。 職員による他大学視察の報告書が提出された。
平成 25 年 10 月 17 日	本学ラーニング・コモンズについて、以下の①②を確保し、③を目指すこととする。 ①学生のアクティブラーニング(グループ学習)を促すインテリア ②個人学習を保証する静かな環境 ③また来たくなる雰囲気、明るく気軽、使い勝手の良いもの
平成 26 年 5 月 22 日	ラーニングコモンズについて原口先生に図書館の構想を伝え、素案の作成を依頼。 ラーニングコモンズへの改装に実績のある業者三社((株)内田洋行、(株)紀伊國屋書店、丸善(株)にマスタープランを提示し、見積・企画書の作成を依頼。
平成 26 年 12 月 12 日	補助金を活用して町田からラーニングコモンズ化を行い、三番町も含めた図書館のラーニングコモンズ化の最初のきっかけとすることを承認。・図書館 1 階の入り口側から 9 門書架等の部分を広くし、学生のグループワークスペースとする。そこでは飲み物を可とする。・4・5 門書架と AV コーナー部分はそのまま残す。

附属図書館運営委員会資料より作成

表 4 改修前の図書館の状況と施設改装の要望

以前の状況	・築20年以来のインテリア・什器、目隠しなしの大テーブルなど現代の学生気質とのズレ・グループスタディルームが図書館の奥まったところにあるので、狭い、目立たない、閉じている・電源とLANケーブル用コンセントのある場所とない場所が混在していて、持ち込みノートパソコンの使い勝手が悪い
図書館の 施設改装 によって もとめる もの	・学生のグループ学習を促すインテリア ・個人学習を保証する静かな環境とそれらを支え る什器 ・また来たくなる雰囲気、明るく気軽なもの、使 い勝手の良いもの ・少人数授業での図書館利用、図書館スペースを 想定した課題学習を促進し、学生の自主的なラー ニングコモンズ利用に連動させる

附属図書館運営委員会資料より作成

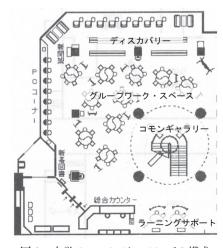


図1 本学ラーニングコモンズの構成

リンタを配置した PC コーナーに加え、ディスカバリー・スペース近くにソファ、飲料の自動販売機を設置し、ラーニングコモンズ内での飲用を可としている。なお、平成28年度からは無線LANも整備されている。

平成27年4月にラーニングコモンズがオープンし、授業、ゼミのほか「図書館ツアー」「英語サロン」「ラーニングアドバイザー」「レポートの書き方講座」「脱出ゲーム(図書館探索ゲーム)」などでの利用が開始されている。

#### 4. 大学内の空間利用と居心地の評価

学生の図書館、ラーニングコモンズ利用状況を みる前に、学生はどのような空間を居心地がよい と感じているのか、その中で図書館はどのような 評価を受けているのかについてみていく。

#### 4-1 居心地の良い空間

第二食堂が児童学科、生活デザイン学科共に、最も居心地の良い空間と認識されており、続いて図書館、ローズコート、第一食堂の順となっている(図2)。ローズコート、第一食堂、第二食堂に共通しているのは、いずれも食事ができる場所であるということだが、その中でも、第二食堂が居心地の良い空間として評価が高い。

第二食堂を選んだ理由の自由記述では、「いつもいるから」との回答が多くあげられている(表5)。第二食堂は教室からも近く、「コンビニが近い」という意見もみられるように、学生が立ち寄りやすい位置にある。いつも自分や友達がいる場所が、居心地の良い空間として認識されていると推察できる。

図書館を選んだ理由の自由記述では、「静か」という回答が多い。「人がいないから」という第二食堂と対照的な意見もあり、図書館が従来から持っている特徴である「静かさ」を求める学生にとって居心地の良い空間となっている事がわかる。

ローズコートを選んだ理由では「ソファがある」 「寝られる」という回答が多く、ソファでくつろぐ 事を目的としていると考えられる。寝たり、くつ ろいだりできる環境はローズコートにしかないも のであり、その点が評価されていると考えられる。

#### 4-2 時間があるときに利用する場所

一人で時間があるときに利用している場所は、 児童学科では第二食堂が突出して多くなっている (図3)。生活デザイン学科では、図書館、第二食 堂の順となっているがその差はわずかである。表 5において第二食堂と図書館の居心地の良さの共 通点は「人がいないから」というものであり、一 人で利用する時に居心地の良い空間として、人が 少ない場所が好まれる傾向があることがわかる。

二~三人で時間があるときには、第二食堂の利用が多く、図書館の利用は少ない(図 4)。表 5 から図書館の居心地の良さの理由は「静かさ」が主であり、友人と一緒に過ごす場所としては静かな図書館ではなく、おしゃべりのできる場所が好まれていることがわかる。

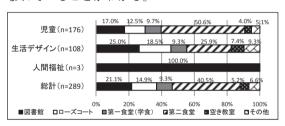


図2 居心地の良い空間

表 5 居心地がいいと感じる理由(主なもの)

第二食堂 (n=117	_	図書館 (n=	66)	ローズコー (n=43)		第一食堂 (n=27)		
いつも いるから	28	静か	25	ソファがあ る	13	広い	4	
広い	19	人が いないから	10	Wi-Fi があ る	3	いつも いるから	2	
コンビニが 近い	10	温度が快 適	6	寝られるか ら	3	ご飯を 食べられる	2	
人が いないから	9	本が読め る	5	教室移動 が楽	2	静か	2	
友達と 話せる	9	ゆっくり できる	4	明るい	2	友達と 話せる	2	

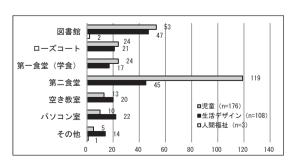


図3 一人で時間がある時に利用する場所

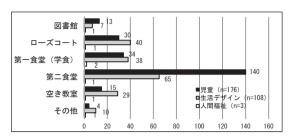


図4 二~三人で時間があるときに利用する場所

#### 5. 図書館・ラーニングコモンズの利用状況

学生の図書館の利用頻度をみると、月数回の利用者が多く、週数回以上の利用者は2割程度である(図5)。

ラーニングコモンズの利用経験は学科によって 授業やゼミ、それ以外での利用状況が大きく異な り、利用したことがないという学生も73人 (25.4%、児童 26.1%、生活デザイン 25.0%) みら れる (図6)。授業やゼミで利用したことがある という学生は児童学科で93人(52.8%)と半数以 上を占めているが、生活デザインでは37人 (34.3%) にすぎない。これに対して授業以外での 利用経験があるのは児童学科35人(19.9%)、生 活デザイン学科 49人(45.4%)と逆転しており、 授業での利用が授業以外での自主的な利用につな がっているとはいえない状況である。また、ラー ニングコモンズで話ができること、飲み物が飲め ることを知っている学生と知らない学生とでは、 利用経験に差があることがわかる(図7)。これ らをカイ2乗検定を用いて検定した結果では、話 ができる $\chi^2(1)$ =29.514, p<0.01、飲み物が飲める  $\chi^2(1)$ =12.013, p<0.01、といずれも有意差が認め られた。

図書館の利用目的をみると、本・雑誌を借りるというものが多く、学生の自主学習にあたる「一人で勉強する」は97人(33.6%)、「友達と勉強する」は10人(3.5%)にとどまっている(図8)。ラーニングコモンズの自主的なグループ学習の場としての活用状況はまだ非常に低い状況にあるといえる。

3、4年次学生を対象とした「ラーニングコモンズができたことで図書館の使い方が変わったか」という質問では、変わったと答えた学生は45人(16.5%)と少数である(図9)。しかし、変

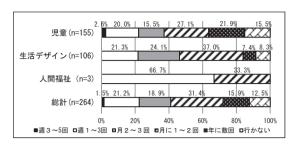


図5 図書館の利用頻度

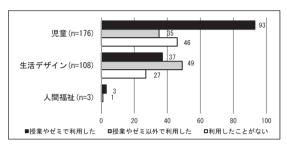


図 6 ラーニングコモンズの利用経験 (n=287)

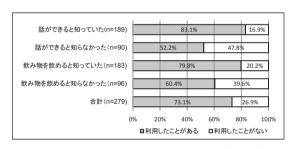


図7 ラーニングコモンズの利用経験(認知別)

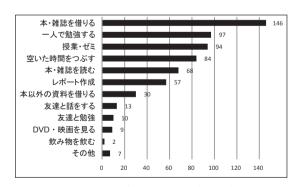


図8 図書館の利用目的 (n=289)



図 9 図書館利用の変化(n=272、3、4 年次学生)

わったと答えた学生の回答内容をみると、「図書館を利用する機会が増えた」27人、「グループで使うようになった」13人となっており、一部の学生についてはラーニングコモンズが有効に機能していることがわかる。

#### 6. 考察

調査より、いつもいる、親しみのある場所が居 心地の良い空間として認識され、利用される傾向 が明らかになった。大学内の居心地の良い場所と しては第二食堂、図書館、ローズコートの順で評 価が高いが、図書館は、一人での利用は多いが、 複数人での利用は少ない。

学生のラーニングコモンズの利用については、 授業以外での自主的な利用はまだ少ない。特に、 話をしたり飲み物を飲んだりしながらグループ学 習ができるということを知らない学生の利用が少 ないが、ラーニングコモンズ整備によりグループ 学習に使うようになったとの意見もみられ、ラー ニングコモンズの使い方について周知をおこなう ことによって利用者が増加することが期待でき る。利用者が増加し利用頻度が増加すれば、ラー ニングコモンズも居心地の良い空間と認識され、 より親しみやすい空間として更に活発に利用され る可能性も期待できる。

ただし図書館については、その静かさに魅力を 感じている学生も少なくないことから、ラーニン グコモンズの運営方法に関しては、学生の利用状 況をみながら柔軟に対応していくことが必要と考 えられる。

#### 参考文献

- 1) 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会:大学図書館の整備について (審議のまとめ) -変革する大学にあって求められ る大学図書館像-. p.28 (2010)
- 2) 上田直人, 長谷川豊祐: わが国の大学図書館におけるラーニング・コモンズの事例研究(特集 ラーニング・コモンズ). 名古屋大学附属図書館研究年報(7): 47-62 (2008)
- 3) 茂出木理子: ラーニング・コモンズの可能性: 魅力 ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ(< 特集>レファレンス再考). 小規情報の科学と技術 58 (7): 341-346 (2008)
- 4) 栗山和也, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二:大学図書館における諸室の利用実態に関する研究: ラーニング・コモンズに着目して. 日本建築学会学術講演梗概集(建築計画): 231-232 (2013)
- 5) 蒋逸凡, 中井孝幸:「個人」と「グループ」利用から みた大学図書館での居場所形成. 日本建築学会学術 講演梗概集(建築計画): 245-246 (2012)
- 6) 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会: ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 実践 事例普遍化小委員会報告. pp.10-11 (2015)
- 7) 平成25年度~27年度本学附属図書館運営委員会資料

#### 謝辞

本研究は生活デザイン学科の小杉美幸さんの卒業研究で実施した調査をもとに再構成したものです。ここに記して感謝申し上げます。

(受付 2017.3.29 受理 2017.6.1)